

R6-7 懇話会における意見集約の報告および確認について

今期(R6-7)の懇話会で出された意見を集約し、次のページにまとめました。

これらの意見は、これまでの事業の継続や前期(R4-5)意見書の内容を引き継ぎ、次期の手話施策の方向性を具体化するための土台となるものです。

本資料にて、R6-7 懇話会の総括として、委員の皆さまにご報告させていただくとともに、内容の最終確認をお願いいたします。

【R6-7 懇話会における意見集約】

今期の懇話会で出された意見等を、大きく4つの項目に分類し、まとめました。

《1. 手話およびろう文化の普及啓発の強化》

市民の皆さまが日々の生活の中で手話に触れ、「ろう文化」への理解を深めることができるよう、これまでの広報活動や啓発事業のさらなる拡大と充実に向けた具体的な提案をいただきました。

意見の概要	施策の方向性	会議/発言者
町内会回覧の内容の工夫と継続	コロナ禍で集まれなかった時の工夫として始めたが、手話を広めるための有効な手段であると考えられ事業を続け、今後はろう者の生活や歴史など、より深い内容を載せて、回覧を充実させる。	R6 第2回 ・吉田委員 ・笹谷委員
「ワンポイント手話」の掲示を拡大し、配布を可能に	子どもが集まる場所や観光施設など、様々な場所に「ワンポイント手話」の掲示を増やす。また、著作権の課題(手話辞典のイラスト)をクリアするため、独自でイラストを作り、誰でも無料で持ち帰れるパンフレット(リーフレット)を作成・配布できるようにする。	R6 第1回 ・丸山委員 ・吉田委員
手話動画をもっと身近なものとし、体験しやすく	手話フェスタなどのイベントで動画の体験コーナーを設けたり、図書館に専用タブレットを設置し、手話の「動き」を見て学べる機会を増やす。	R6 第2回 ・今村委員
子どもたちが手話に触れ、体験する新たな場づくり	小学校の高学年を対象に、聞こえない人と通訳なしで生活体験や共同作業(料理、キャンプなど)を通じた新たな交流機会を企画する。	R7 第1回 ・今村委員
イベントを通じた子どもの参加促進	手話フェスタなど既存イベントの広報方法や参加要件について、保護者同伴での参加促進を含めた見直しを行い、子どもや校区外の参加を促す。	R6 第2回 ・奥井委員 ・熊谷委員
手話言語の国際デーの周知強化	ブルーライトアップ事業を通じて手話言語の国際デー(9月23日)の周知機会とし、その意義を広報やホームページで積極的に市民へ発信する。	R6 第1回 ・奥井委員

《2. 手話通訳者等の専門人材確保と環境整備》

手話通訳者などの人材が長期にわたり安定して活動できる環境を整備するため、専門職としての仕組みづくりや、未来の担い手を育成・確保するための大学・学校との連携強化などについて意見交換を行いました。

意見の概要	施策の方向性	会議/発言者
手話通訳者の仕事の安定化と人材の確保	手話通訳者の仕事を「身分がしっかり守られた専門職」にするための具体的な制度を検討し、将来の担い手となる人材の安定的な確保を目指す。	R6 第1回 ・丸山委員
学校連携による協力人材づくり	藤女子大学などと協力し、大学の授業で手話を学べる機会やイベントを一緒に開くなどして、未来の通訳者や協力者につながる関係を深めていく。	R6 第1回 ・今村委員 ・笹谷委員
学校教育における手話理解促進と普及	小中学校において、手話出前授業の実施回数を増やす、または日常的に手話に触れる機会を確保するなどし、児童生徒の早期からの手話への親しみと理解を深める。	R7 第1回 ・長縄委員 R6 第1回 ・熊谷委員
手話及びろう者への理解者拡大と活動強化	通訳者だけでなく、ろう者のことを理解し、活動を支えてくれる幅広い市民(協力者・理解者)を増やすための活動を強化する。	R6 第1回 ・今村委員

《3. 災害・緊急時における情報保障体制の整備》

災害時や夜間・休日においても、聴覚障がいのある方が必要な情報と支援を迅速に受けられるよう、遠隔通訳の拡大や緊急情報発信体制の強化、避難所における情報保障設備の充実などについて、具体的な意見をいただきました。

意見の概要	施策の方向性	会議/発言者
夜間・休日における遠隔情報保障体制の確立	デジタル技術(スマートフォンやタブレット)を活用した遠隔通訳システムを整備し、通訳者が場所を選ばず、自宅などからも対応できる体制を確立し、土日や夜間の緊急時を含め、手話通訳サービスを常時利用可能とする。	R6 第1回 ・丸山委員
デジタル媒体を活用した緊急情報発信の強化	災害などの緊急時に、手話付きの動画を市のSNSやLINEで迅速に発信する仕組みを作る。これにより、聴覚に障がいのある人を含む幅広い市民に対し、必要な情報が確実に届くようにする。	R6 第1回 ・丸山委員
避難所の情報設備を強化	避難所に筆談ボードだけでなく、テレビの情報を手話や字幕で見られる機械(アイ・ドラゴン)の設置を検討する。	R6 第2回 ・佐々木副会長
緊急時に備えたNET119の操作習熟支援	緊急通報システム(NET119)の登録者が、操作方法を忘れないよう、復習のための講習会を定期的に行い、緊急時に確実に通報できる体制を構築する。	R6 第2回 ・丸山委員

《4. 施策推進に向けた視点名称の見直し》

前々期(R2-3)から継承してきた4つの視点のうち、新型コロナウイルス感染症の5類移行などの社会情勢の変化に対応するため、前期(R4-5)懇話会から引き継がれた名称見直しの意見に基づき、施策の視点の名称をより現代的かつ実態に即したものに見直すことについて、全委員で協議し合意いたしました。

意見の概要	施策の方向性	会議/発言者
施策視点の名称変更について	これまでの「コロナ禍において必要な視点」という名称を、「日常生活の変化に合わせた視点」に変更し、マスク着用時の会話やオンライン会議の増加など、社会のあらゆる場面におけるコミュニケーションの変化に的確に対応していく。	R7 第1回 全委員合意

以上で、R6-7 懇話会における意見集約の報告を終了いたします。

本資料は、次期へ引き継ぐ施策の方向性を定めるための土台となりますので、委員の皆さまにおかれましては、記載内容に過不足や認識の違いがないかなど、改めてご確認のほどよろしくお願いいたします。